

愛媛小林製薬(株) 環境経営レポート

対象期間: 2023年1月～2023年12月

2024年3月発行



エコアクション21
認証番号0000050



2024
健康経営優良法人
Health and productivity



熱さまシートの製造業務において認証取得

<目次>

● 組織の概要.....	1
● 対象範囲、レポートの対象期間および発行日.....	2
● 環境経営方針.....	3
● 環境経営の組織体制と役割.....	4
● 環境経営目標と実績.....	5
● 事業活動に伴う環境への負荷.....	6
● 環境活動の取組内容(2023年度).....	7
● 化学物質の安全管理.....	8
● 環境関連法規等の遵守状況、並びに違反訴訟等の有無.....	9
● 環境会計.....	10
● 代表者による全体評価と見直しの結果・指示.....	11

● 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

愛媛小林製薬株式会社 代表取締役 社長 林田 拓也(はやしだ たくや)

2. 所在地

〒792-0892 愛媛県新居浜市黒島1丁目7番24号

3. 事業活動の内容

不織布製品(衛生雑貨品)製造業

4. 主な製造品

- ◇パンティーライナー(サラサーティ関連)
- ◇解熱用ゼリーシート(熱さまシート)
- ◇マスク(のどぬーる めれマスク)
- ◇汗とりパット(あせワキパット)
- ◇めがねふき(メガネクリーナーふきふき)
- ◇電子レンジクリーナー(チン！してふくだけ)
- ◇住宅用洗浄剤(かんたん洗浄丸) **new!**



5. 環境管理責任者(環境委員長)及び担当連絡先

環境管理責任者	社長付	續木 雅彦
担当者	業務グループ	日野 徹也
連絡先	電話	0897-45-3777
	FAX	0897-45-4111

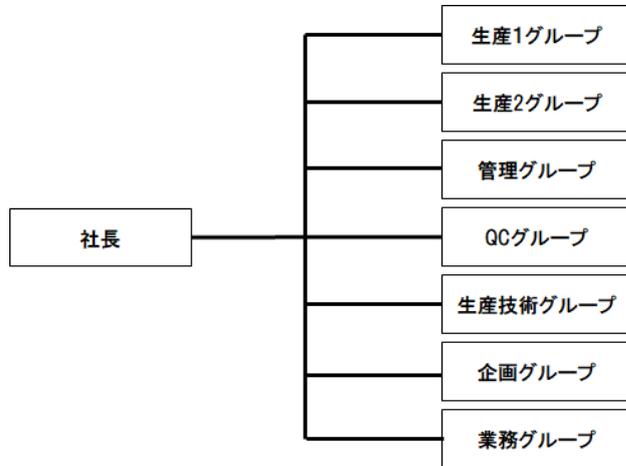
6. 事業の規模

年度	2023	2022	2021	2020	単位
生産量	8,184	8,028	4,924	7,161	t
売上高	5,320	4,536	3,509	4,874	百万円
従業員数	248	208	182	206	人
床面積	11,559	11,526	11,526	11,526	m ²

● 対象範囲、レポートの対象期間および発行日

1. 認証・登録範囲 愛媛小林製薬株式会社

- ・対象範囲:本社・工場
- ・事業活動:不織布製品(衛生雑貨品)製造業



2. 報告対象期間 2023年1月1日～2023年12月31日

3. レポートの発行日

2024年3月発行

2024年7月 修正:P5,P6の一部数値間違いを修正

2024年8月 修正:P5の一部数値間違い他を修正

2024年9月 修正:単位表記の修正、P6の一部数値間違いを修正、語句の統一。

愛媛小林製薬(株) 環境経営方針

環境理念

私たちは、小林製薬グループの「環境宣言 2030」に基づき、世界共通の環境課題を正しく理解し、化学物質による環境影響を小さくするよう全員参加で自主的・積極的に、解決のためのアイデアを出し合い、実行し続けます。

環境行動指針

【① 法令遵守及び自主基準の策定と実行】

環境関連の法規制を遵守することはもとより、自ら環境改善目標・自主基準を定め継続し実行します。

【② 温室効果ガス排出削減】

エネルギー利用の効率化や浪費の排除、再生可能エネルギーへの転換など、温室効果ガスの削減に努めます。

【③ 天然資源への配慮】

水使用量の削減、及び排水基準の管理徹底により、地域社会への環境負荷軽減に努めます。

【④ 廃棄物の削減とリサイクルの推進】

工程ロスを減らし、生産活動における排出物の削減を図ります。また分別の徹底を行い、再資源化の促進に努めます。

【⑤ 環境経営方針の共有、及び環境活動の開示】

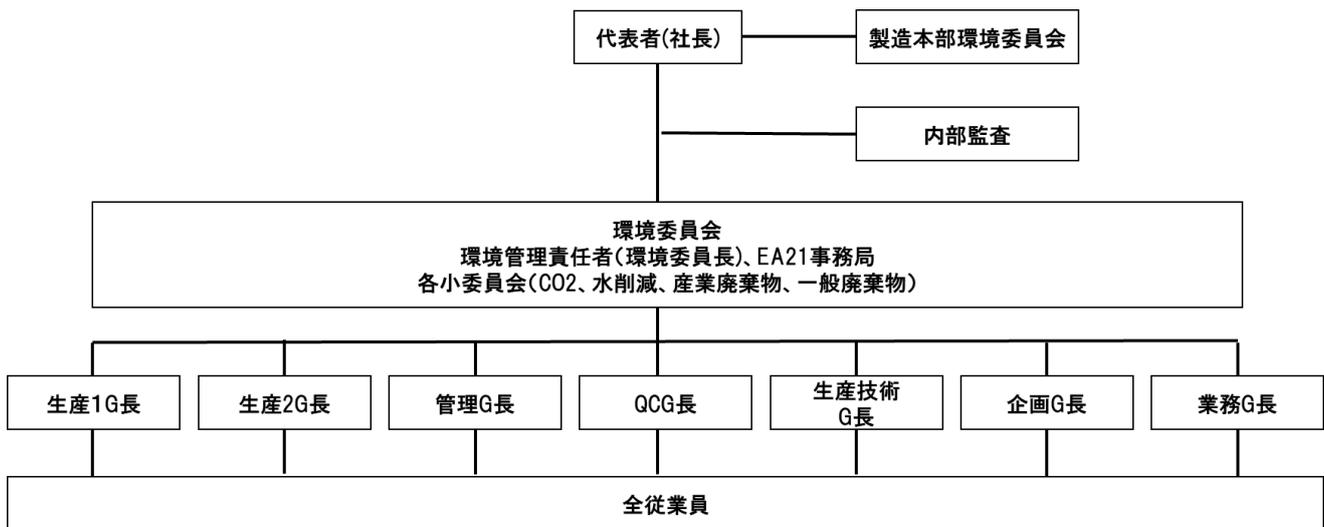
環境経営方針を全社員で共有し、教育・啓発活動を通して一人一人の環境保全意識の向上に努めます。また、地域社会に対して、環境活動を支援するとともに、これらの取組みを情報公開いたします。

2003年11月1日制定 2022年1月1日改訂
愛媛小林製薬株式会社

代表取締役 

● 環境経営の組織体制と役割

1. 環境対応組織図



2. 環境委員会事務局組織と職責

職名	職責
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針を策定する。 ・環境経営目標及び環境経営計画を承認する。 ・環境経営システムの構築及び運用に必要な資源(人、物、財務的資源)を用意する。 ・環境管理責任者を任命する。 ・環境経営目標の進捗について、環境委員会で報告を受け、必要に応じて改善を指示する。 ・毎年1月に環境経営システム及び環境経営方針の見直しを行う。
環境管理責任者(環境委員長)	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制等環境に関する遵守事項の状況を確認する。 ・各G長に環境に関する情報共有、注意喚起、活動指示等を行う。 ・EA事務局並びに各小委員会に環境経営目標の設定を指示し、改善指示を行う。 ・毎月1回環境管理委員会を開催する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築及び運用に関して環境管理責任者の業務を補佐する。 ・環境管理責任者の指示により、必要な調査・検討を行う。 ・環境活動関連の数値集計、記録や報告書を作成する。
各G長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者、EA21事務局からの指示を元に、全従業員に対し、環境に関する情報共有、注意喚起、活動指示等を行う。
各小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された環境経営目標を達成できるようPDCAを回し、活動する。

● 環境経営目標と実績

数値目標は、前年の重量原単位を基準としている。CO2 は、2022 年度施行の改正省エネ法により、「年間のエネルギー消費量を1年ごとに1%以上削減すること」という目標が定められたため、生産重量原単位 1.0%減/年を目標とした。その他の廃棄物、水使用量、化学物質の削減は、引き続き、生産重量原単位 0.5%減/年を目標としている。

		2022 年度	2023 年度		達成率 (*1)	達成 評価	2024 年度
		実績	目標	実績			目標
生産重量[t]		8,028	(予測)8,376	8,184	—	—	(予測)9,746
CO2 排出 電力排出係数 =0.569[kg/kWh] (2021 年四国電力 実績値を基準)	CO2 排出量[t]	2494	2,579	2,701	93.2%	×	2,967
	電力由来	1944	—	2,118			—
	LPG 由来(*3)	542	—	572			—
	車両燃料由来	8	—	11			—
	生産重量原単位	0.311	0.308	0.330			0.304
	原単位基準年比	—	1.0%減	6.2%増			1.0%減
産業廃棄物 (除有価物)	排出量[t]	595	617	813	74.3%	×	715
	生産重量原単位	0.0741	0.0737	0.0993			0.0734
	原単位基準年比	—	0.5%減	34.0%増			0.5%減
	リサイクル率	99.5	99.5	99.7			100.2%
一般廃棄物	排出量[kg]	570	592	980	59.0%	×	685
	生産重量原単位	0.0710	0.0706	0.120			0.0703
	原単位基準年比	—	0.5%減	68.7%増			0.5%減
水使用量	水使用量[t]	8,572	8901	10,234	85.0%	×	10,302
	生産重量原単位	1.068	1.062	1,250			1.057
	原単位基準年比	—	0.5%減	17.1%増			0.5%減
化学物質	化学物質使用量[kg]	2,402	—	3,097	82.0%	×	—
	移動量[kg]	80	83	99			96
	(移動量に対する) 生産重量原単位[kg/t]	0.00997	0.00992	0.0121			0.00987
	原単位基準年比	—	0.5%減	21.4%増			0.5%減
環境性能 (有価比率の評価)	廃棄物排出量[t>(*2)	1,036	—	1,290			—
	有価量[t]	441	—	476.6			—
	有価率[%]	0.426	—	0.369			—

(*1) 達成率(大きい方が達成度が高い。100%未満は未達成)は、

- ・目標値より実績値が大きくなると達成度が高い場合、実績値/目標値(産廃のリサイクル率)
- ・目標値より実績値が小さくなると達成度が高い場合、目標値/実績値(リサイクル率以外)

により、算出した。

(*2) 廃棄物排出量: 弊社から廃棄される廃棄物の総量を指し、有価物に転用された排出物も含む。

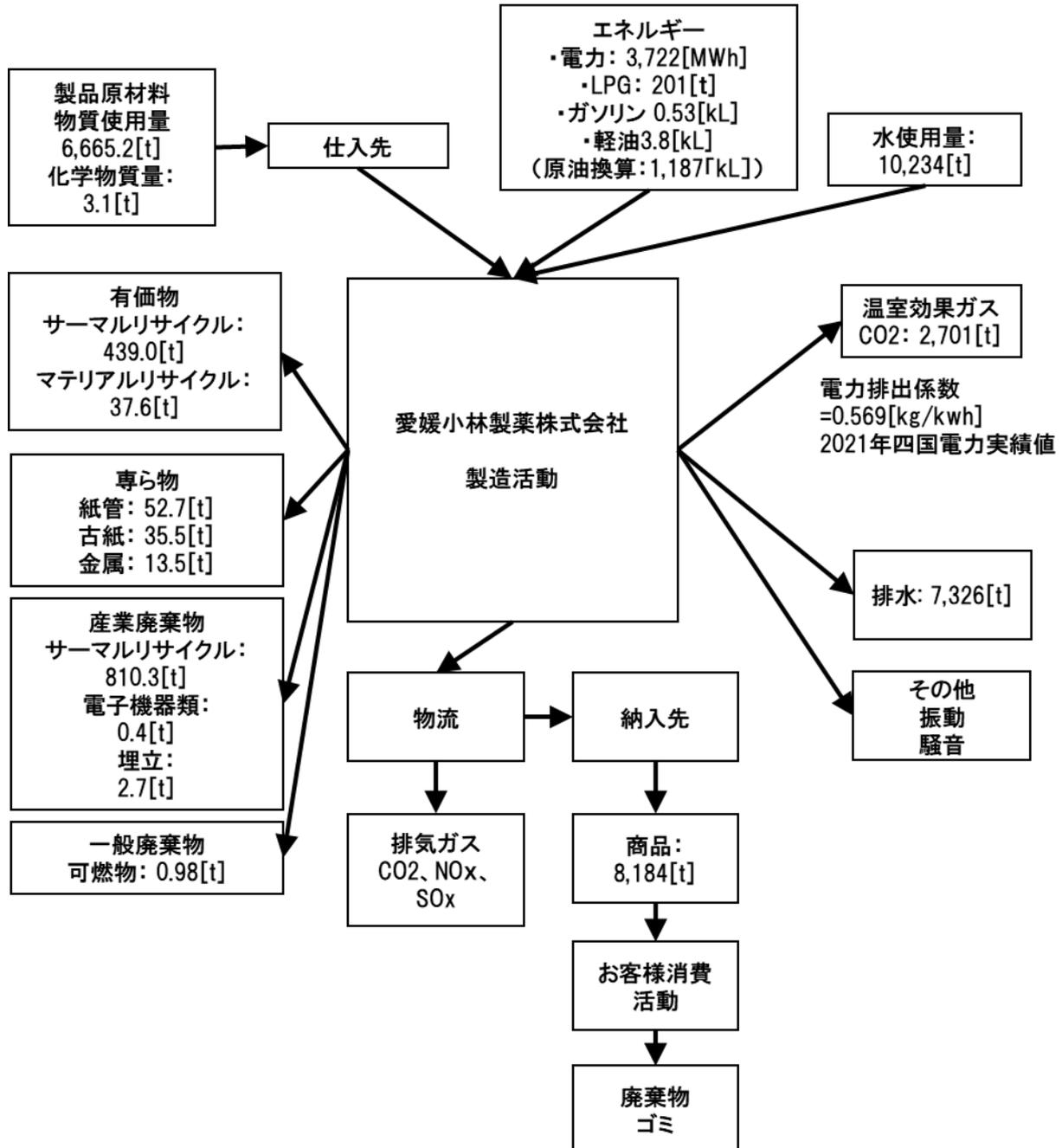
(*3) LPG 供給業者提供の CO2 排出係数(5.93kg/m³)を使用。

● 事業活動に伴う環境への負荷

事業活動に伴う環境への影響には、次のようなものがあります。

- ◆ 生産活動で生じる環境への影響
- ◆ お客様に製品をお使い頂くことで生じる環境への影響
- ◆ 製品を作るための原材料として使用する化学物質の環境への影響

事業活動における物質フロー(2023年)



● 環境活動の取組内容(2023 年度)

活動分野	手段	実施内容（年間を通して実施）
二酸化炭素排出量の削減 【活動部署】 ・CO2 排出削減小委員会。	生産効率の改善 業務効率の改善 省エネルギー活動	・エア一量削減のためのエア一漏れ箇所の重点的調査と対策を実施した。 ・サラ現場夏季服装の軽装化である長袖シャツを、希望者に配布した。運用し始めると、希望者が増加した。 ・建物に遮熱塗装を実施した。
廃棄物排出量の削減 【活動部署】 ・産業廃棄物削減小委員会 ・一般廃棄物削減小委員会	歩留の改善 不良品の削減 3R活動 啓発活動	【産業廃棄物】 ・熱さまシート廃ゲル減容化に向けた検証を進め、減容設備の導入検討を進めた。 ・廃棄ゲル分別を精密化し、廃プラ排出量を削減した。 ・産廃の有価物化の推進のため、業者との交渉を進めた。 ・ロス率改善のため、シート軽過量対策、X線誤検知ロス削減、個箱重量廃出力削減計画を実施し、効果を上げている。 ・一般廃棄物の集積所を見学し、廃棄物の現状確認、分別、集積禁止物がないか等の現状確認を行った。 ・下記、ペーパレス化への活動により、紙の使用量を削減した。 ① 一部従業員が提出している手書きの勤怠届出書を、勤怠システムに直接入力するように移行した。 ② 手書きの入荷予定表を、タブレット入力に移行した。 ③ 一部の回覧資料をPDF化し、電子回覧に移行した。 ④ 手書きのリフト点検表をPCに直接入力するようにした。 ・デジタルサイネージモニタを利用して、月に1件以上の啓発活動を行った。
水使用量の削減 【活動部署】 ・水使用量削減小委員会	工程の改善 節水活動 中水・再生水の活用	・設備の管理・運用方法を見直し、設備の改造と管理ルールの見える化掲示と合わせて実施した。 ・下記案件を検討したが、投資コストに削減コストが見合わず、実現しなかった。 ① 純水装置の排水を純水作成に再利用する装置の導入 ② 手洗い水を再利用する装置の導入 ③ 節水型トイレの導入
化学物質使用量の削減 【活動部署】 ・産業廃棄物削減小委員会	薬品使用方法の改善	・PRTR法に基づく排出量、移動量の定量的管理 ・製品ロス率の低減(活動内容は、産廃排出削減に準じる)
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 【活動部署】 ・企画G ・QCG ・生産グループ(1,2) ・産業廃棄物削減小委員会	環境改善に資する製品・サービスの開発・販売、製品の環境性能の改善	生産子会社であるため、製品・サービスの開発、販売を行っていない。活動内容としては、 ① 環境負荷の少ない製品仕様の提案を行っている。 ② 防虫等製造環境の構築 ③ 品質クレームの目標数値 ④ 廃棄物の有価転用評価のための有価比率集計 ⑤ 廃棄物削減、現場のロスを減らす。 ⑥ 資材の使用量を減らす。 を行っている。

3. 従業員の健康対策

- ・健康経営優良法人 2024 を取得いたしました(2024 年 3 月)。
- ・6S(安全衛生)委員会:産業医による毎月1回の定期巡回しております。
- ・有機溶剤関連の作業環境測定と定期健康診断を実施しています。

4. 環境経営目標設定について

- ・国や地方自治体の法規制を遵守します。
- ・小林製薬製造本部の目標達成のため愛媛小林製薬株式会社の目標を設定します。
- ・愛媛小林製薬株式会社の製品の特徴、地域性を活かし、環境負荷の大きい案件から対策します。
- ・小委員会活動において、各種の削減のための、目標⇒計画⇒実践⇒評価を行います。

5. 報告書の作成

2000 年度より毎年1回環境経営レポートを発行しています。

● 化学物質の安全管理

- ◆ 小林製薬グループでは、化学物質管理ポリシーを明確にしました。

化学物質管理ポリシー

小林製薬グループでは、化学物質に関する適切なガバナンス体制を構築し、原材料の選定・調達、製造、流通、使用、廃棄という製品のライフサイクルを通じて適切な化学物質管理を行うことで、環境負荷が少なく、お客様が安全に使用できる製品の提供を目指します。

そのために、各種法令の遵守に加え、海外の規制動向や国内外の業界基準・ガイドライン等を参考に、製品および原材料のリスクについて自社独自の評価を行い、化学物質の適正使用を推進します。

また、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆さまに向けたリスクコミュニケーションとして、製品の安全性と適切に使用していただくための情報について、アクセスがしやすい情報提示に取り組みます。

◆ PRTR 対象物質

下記、PRTR 物質を使用しております。1トン以上の取り扱いのある「4-ヒドロキシ安息香酸メチル」は、2023年4月1日の化管法 政令改正により、第二種に移行したため、移動量、排出量の届出が不要になりました。なお、対象物質の取扱量集計は、届出要否判断に必要なため、引き続き実施いたします。

政令番号	物質名称	取扱量[kg]
1-048	アンチモン及びその化合物	504.36
1-105	銀及びその水溶性化合物	9.12
1-109	グルタルアルデヒド	0.03
1-111	クロム及び三価クロム化合物	504.36
1-172	1, 4-ジオキサシクロヘプタデカン-5, 17-ジオン	25.67
1-232	2, 6-ジターシャリーブチル-4-クレゾール	4.50
1-411	3-(4-ターシャリーブチルフェニル)-2-メチルプロパナール	6.66
1-438	ヘキシル=2-ヒドロキシベンゾアート	8.33
1-449	2-ベンジリデンオクタナール	2.78
1-454	3-(1, 3-ベンゾジオキソール-5-イル)-2-メチルプロパナール	0.56
1-473	メチル=2-(3-オキソ-2-ペンチルシクロペンチル)アセタート	5.55
1-485	(E)-3-メチル-4-(2, 6-トリメチルシクロヘキサ-2-エン-1-イル)ブタ-3-エン-2-オン	0.56
1-492	3-メチルペンタ-3-エン-2-オンと3-メチリデン-7-メチルオクタ-1, 6-ジエンの反応生成物であつて、1-(2, 3, 8, 8-テトラメチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-2-ナフチル)エタノン、1-(2, 3, 8, 8-テトラメチル-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロ-2-ナフチル)エタノン及び1-(2, 3, 8, 8-テトラメチル-1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロ-2-ナフチル)エタノンの混合物を80重量パーセント以上含有するもの	1.67
2-035	酢酸ベンジル	6.20
2-086	2-ヒドロキシ安息香酸(Z)-3-ヘキセニル	28.57
2-087	4-ヒドロキシ安息香酸メチル	1,988.43
	合計	3,085.19

◆ 有機溶剤の取り扱い管理

- ・有機溶剤取り扱い作業では局所排気装置とドラフトチャンバーを使用。
- ・作業環境測定は年二回実施しており、結果は第一管理区分を維持している。

● 環境関連法規等の遵守状況、並びに違反訴訟等の有無

● 環境関連法規の遵守

・小林製薬環境委員会による内部監査の実施(2023年11月1, 2日実施)

環境関連法規への違反ならびに訴訟はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

環境関連法規等の遵守状況(非該当の法令は割愛)

法令の名称	該当事項	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・一廃収集業者の許可の確認 ・産廃収集運搬・処分業者の許可の確認、契約 ・保管基準 ・マニフェスト交付 ・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任 ・特別管理廃棄物の帳簿の作成 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 ・処理の状況について確認の努力義務 ・自社による運搬時の表示、書類携行 	○
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期水質検査(1回/年) ・保守点検、清掃記録の保管(3年間) 	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易自主点検(3か月) ・有資格者による点検 ・点検記録の保管(廃棄後3年間) ・漏洩時の報告 	○
化学物質排出移動量届出制度(PRTR)	<ul style="list-style-type: none"> ・排出・移動量の報告の該当なし 	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定数量以上の危険物設備の許可申請 ・少量危険物の設備の届出申請 ・指定可燃物の申請 	○
工場立地法	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化計画、生産施設等の新設、変更の届出 	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・排出量や排出の抑制及び再資源化等の状況、排出の抑制及び再資源化等に関する目標の策定と公表 ・削減の取り組み 	○

● 苦情処理記録

2023年度において、外部からの苦情報告はありませんでした。

受付日	氏名	苦情内容	回答内容	備考
—	—	—	—	—

● 環境会計

1. 集計方法

- (1)環境庁「環境会計システム導入のためのガイドライン(2000年版)」に準拠
- (2)環境保全活動の費用(減価償却費を含む)、投資、効果を集計しています。
- (3)効果は、環境保全効果(物量単位)と経済効果(貨幣単位)を集計しています。
- (4)経済効果は実質的效果のみ対象としています。

2. 集計結果

集計範囲 : (愛媛小林製薬株式会社)

対象期間 : (2023年1月1日~2023年12月31日)

単 位 : (千円)

環境保全コスト				
分 類		主な取組の内容	投資	費用
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	大気汚染防止・水質汚濁防止 騒音防止・悪臭防止 省エネ対策 廃棄物処理		39,940
内 訳	①公害防止コスト	大気汚染・水質汚濁・悪臭防止		1,785
	②地球環境保全コスト	省エネ		5,653
	③資源循環コスト	廃棄物処理費用		32,502
(2)	“生産・サービス活動に伴って上流又下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)”	容器包装リサイクル委託費用		
(3)	“管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)”	教育・環境保全担当者人件費		2,193
(4)	“研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)”			
(5)	“社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)”	緑化・美化・社会貢献		
(6)	“環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)”			
合 計			0	42,133

環境保全効果			
効果の内容		環境保全効果を表す指標	
		指標の分類	指標の値
事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	二酸化炭素排出量売上原単位	0.512 tCO ₂ /百万円
		二酸化炭素排出量売上原単位	0.329 tCO ₂ /t
		電力消費量原単位	0.455 MWh/t
		エネルギー消費量原単位	0.145 kL/t
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	産業廃棄物発生量	813 t
		産業廃棄物削減率	36.8% 増
		産業廃棄物リサイクル率	100%
		産業廃棄物量生産重量原単位	0.099 t/t

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金額(千円)
収 益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクル又は使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	1,310
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減(前期差)	-3,515
	省資源又はリサイクル活動に伴う廃棄物処理費の節減(前期差)	-9,105
	省資源による費用節減	16,127

● 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

2023年度は、コロナが5類移行し、経済活動の活発化を伴って、昨年と比較して、生産重量が大きく増加しました。ただ、増産のための人員確保や教育に苦戦し、操業度やロス率が悪化、環境数値は悪化してしまいました。

CO2削減、水削減、廃棄物削減、一般廃棄物削減の4つの小委員会は、地道な取り組みは続けており、社員の環境に対する意識も向上しています。

また、見直しは、下記の通り。

- ・環境経営方針は、赴任初年度のため、昨年度の方針を継承した。
- ・実施体制については、生産2Gを生産2、3Gに分割した。また、一般廃棄物削減小委員会と産業廃棄物小委員会の統合を計画する。
- ・今期取組結果と次年度の環境経営計画は、下表のとおり。

・今期取組結果と次年度の環境経営計画

活動分野	取組結果	次年度の環境経営計画の取組
二酸化炭素排出量の削減 【活動部署】 ・CO2排出削減小委員会。	・エア一量削減のためのエア一漏れ箇所の重点的調査と対策を実施し、65カ所のエア一漏れを補修し、概算で14[t]のCO2排出量を削減した。 ・建物に遮熱塗装を実施した。	下記、CO2排出量削減アイデアの実現可否を検討し、可能のものについては実施していく。 ・チラー&ボイラーを冷温同時ヒートポンプに更新する。 ・空圧回路メーカーによる省エネ診断を実施する。 ・排煙窓、エアコン室外機への断熱シートを設置する。 ・コンベアの連動化や休憩中に停止する仕組みの導入。 ・休憩中のエア一の連続噴射を間欠噴射に変更する。 ・太陽光発電を導入検討する。
廃棄物排出量の削減 【活動部署】 ・産業廃棄物削減小委員会 ・一般廃棄物削減小委員会	【産業廃棄物】 ・熱さまシート廃ゲル減容化に向けた検証が進み、減容設備の導入検討を具体化していく。 ・廃棄ゲルの分別を精密化し、廃棄物種類の汚泥とし、廃プラ排出量の削減 【一般廃棄物】 ペーパーレス化への活動により、紙の使用量、削減に貢献した。	【産業廃棄物】 ・プラスチック資源循環促進法に則り、特に熱さまシート生産における、製造工程上のロス削減、ロス品の減容処理の2方向で対策を行う。 ・昨年に引き続き、減容化設備の導入に向けた投資計画を立案実行する。 【一般廃棄物】 ・新プラ法により、分別が複雑になった為、分別の再教育が、啓発活動を進め、削減活動の風土化を目指す。 ・昨年からの活動継続中の下記案件を進めていく ① ハンディーターミナルを用いた資材チェックシステムが出力するラベルシールをやめて電子化する。 ② 製品の紙の現品票をやめて、電子化する。 ・目標として、年間10,000枚（年間印刷枚数の3%）、または5件以上の紙削減活動を行う。
水使用量の削減 【活動部署】 ・水使用量削減小委員会	・設備の管理・運用方法を見直し、設備の改造と管理ルールの見える化掲示と合わせて実施した。	・水使用量集計の自動化、自動化による異常時の早期発見システムを構築する。 ・水使用作業を改善し、水使用量を削減する。 ・見える化モニタを活用し、水削減の意識を向上させる。
化学物質使用量の削減 【活動部署】 ・産業廃棄物削減小委員会	PRTR法に基づく排出量、移動量の定量的管理が実施出来た。 年間使用量1[t]を超える化学物質については、国への報告を行った。	・引き続き環境委員会内で管理を行い、使用量が増大する場合は適宜対策を講じる。
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 【活動部署】 ・企画G ・QCG ・生産グループ(1,2) ・産業廃棄物削減小委員会	環境員会内で環境関連の数値見える化、法令教育、課題抽出の議論等を実施した。	・スコープ3削減に向け、製品仕様変更を製造本部、事業部と協議して環境負荷の少ない製品仕様を工場から提案していく。

黒島海浜公園清掃ボランティア活動 第41回 2023/10/28



黒島海浜公園清掃ボランティア活動 第40回 2023/4/22



黒島海浜公園清掃ボランティア活動 第39回 2022/10/22

